

西村クリニック便り 第134号

発行元 西村クリニック 四條畷市楠公 1-14-6 0728623001

私が奈良医大の学生の頃、「哲学」という講義がありました。そこで哲学の先生は人間の命の尊厳について熱く語られ、医の倫理観やはかりしれない命の尊さについて私たち学生は学んだのでありました。そしてまた「人間はどこから来てどこへ去っていくのだろうか」というのも哲学の一つの命題であると語られていたのもつい昨日の様に思い出されます。先日ふとテレビを見ていますと前世の記憶を語るタケハル君という少年の話が放送されておりました。タケハル君は何故か幼少期より「月月火水木金金」などの軍歌を口ずさんでおりました。そしてある頃より昔戦艦大和に乗っていたと話し出したとのことであります。更には爆弾が雨の様に飛んできて戦艦大和の左側に集中砲火を受け、沈没してしまったと語りました。タケハル君があまりにも大和をもう一度見たい乗りたいと訴えたため、両親は呉にある大和ミュージアムに連れて行った所、10分の1スケールのミニチュアを見てタケハル君は「こんなのじゃない、偽物だ」と怒って泣き出したとの事であります。人間の生まれ変わりについて最近かなり研究が進められている様で、この研究の第一人者に大門正幸という方がおられ著書も多く出版されております。大門先生はタケハル君が断片的に語る記憶の後をたどって調査したところ、タケハル君は前世で海軍兵学校を卒業後戦艦大和に乗っていて撃沈された乗組員の一人でその当時の写真からどの人物だったかもほぼ特定できるとの事でありました。大門先生は人間の生まれ変わりについて何千もの事例を集め、それを科学的に分析し検証してみようとされております。先生の著書によれば例えば前世の記憶をたどり前世の親族と今世で会ったという事例などは数多く述べられており、また前世で銃で撃たれた人が生まれ変わった時、その銃弾が貫通した場所に母斑があるというのもよくある事例だそうです。また幼い頃から戦前の中国大陸や満州国にロマンを感じほとんどの軍歌を口ずさむことが出来ていた人が、独自の調査で自分の前世が満州で生きていた叔父だったと特定していった話などたくさんの事例について書かれております。さて先ほどのタケハル君の話に戻りますがテレビで彼は「自分は前世では戦争でたくましく戦う、そのためだけに生きていた。しかし今は違う。今世では自分は世界平和につくしたい。」と語っていたのが印象的です。そして生まれ変わりを研究する人たちはこうも言います。「人は死んで終わりではない。また復活するのである。その時に今よりももっと素晴らしい人間となるために今の人生をもっと実りあるものとし、世のため人のためにつくすという事が大切なではなからうか。」人間の生まれ変わりについてはこれは非科学的で認められないなどの様々な意見もあり、これからもまだまだ研究し解明していく余地が多々あると思われまます。しかしながら私が昔哲学の講義を聴いて「人間はどこから来てどこへ去っていくのだろうか」という哲学の命題について一つの答えが見えてきたような気がする今日この頃です。

当院では3割負担で420円 1割負担で140円で骨密度の測定ができます（診察料等は別途ご負担）骨粗しょう症の治療薬も処方させていただきます お気軽に院長までお申し出ください

診察の混雑時に外出される方は受付までお声かけいただき戻ってまいられましたらお知らせください なおプラセント注射のみの患者さんは来院時にお声かけください 診察内容により診察の順番が変わります ご了承ください